

景況実感調査(2015年12月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 輸入材の影響を受けているPO、EGの2品種において、価格がまだ落ち着く様子が見えず、売り急ぐ業者があるように感じる。在庫品の買い控えも終わる雰囲気がない。
- ② 薄板の店売りについては、過去に経験したことがない引合い状況であり、先行き好転の兆しは何ひとつ見えていない。
- ③ 稼働日数減のため売上が減少した。
- ④ GIを主に輸入材の単価がベースになっている。在庫を持っている者負けであるが、歯抜けが出た場合、各社どこも持っていないのが現状。
- ⑤ 実働18日となったが、売上、数量共にそれ以上のマイナスであった。年度売上は対前年比マイナスが確実視され、表面処理鋼板の市況もこの一年で約10%近いダウンで新年を迎えた。国内店売りマーケットは勢いが回復せず、12月はとくに鈍さばかりが実感された。新年は、下期にかけて確実に実需が発生する予想なので、取りこぼしの無いよう心したい。去年は、年初の期待が大きかっただけに、失望も大きかった。申に人偏で伸びる年としたい。

中板

- ① 輸入安値玉に加え、販売減による在庫増。需要の回復も見込めず、12月、1月と良い要素が全くない。

厚板

- ① 厚板素材、切板加工とも少量受注になっている。

—舟安开形鋼

- ① 11月からの引合い、契約、デリバリーの急減傾向は今月も続いた。時期的に端境期とは言い難いが、他に言葉が見つからない。新年に入れば少なからず荷動きは好転すると思われる。
- ② 現場が動いているという感覚は若干あるが、今後は大型物件や町場物件の動きが少なくなるという話が出ている。

II开形鋼

- ① 本格的な需要が無いことか、販売価格が弱含みなのが原因なのか、例年であれば出荷量が増える時期に減少となっている。今後の需要に期待しつつも、引締めが必要と思われる。
- ② 市況は下げ渋っていてあまり変わらない。ただ、需要の盛り上がりは感じられず、現状のまま推移すると思われる。

異形棒鋼

- ① 12月前半までは動きが良かったが、後半は良くなかった。客先は当用買いに徹しているため細かいものばかりで経費が出ず、単価は下げられない。
- ② 需要が少ないため流通間の競争が激しく、市況はじり安傾向。特約店機能を生かして利益確保が出来るように少しでも質の高い商売を求めている。

平鋼

- ① 荷動きは相変わらず低位横這い。相場も弱含みじり安のため、まとまった引合いも少ない。建築関係は端境期で動きが悪い。オリンピック関係に付随する仕事が出て来ることを期待している。

軽量形鋼

- ① 大よそ昨年並みだが、今期残3ヶ月、少し上積みしたい。
- ② やや下落傾向にある。

鋼管

- ① 低調な推移のままであるが、市況は横這いを維持している。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品はメーカーによりバラツキがあり、また軽自動車の減速もあり上期並みで推移しそうである。
- ② 建設機械関連は、1～3月は協力工場の稼働が増えることで微増となるが、4月以降は減少の見込みとなっており、先々不透明である。工作機械、産業機械関連は助成金による中小企業の設備更新も一巡し、一時の勢いがなく先細りとなっている。店売りの荷動きは大きな変化なく、低調な動きが続いており、市況は弱含み横這いで推移している。
- ③ 建設機械関連の低調に変わりなく、先行きの見えない状況が続いている。工作機械や産業機械関係も弱くなり、荷動きは厳しい状態。

鋼材全般

- ① 11月より12月の方が日当たり数量は多いが、実質12月は稼働日が25日までなので日数が足りない。例年は11～12月中旬までがピークだが、近年まれにみる低調。

その他

<スクラップ>

- ① 12月は約半年ぶりに東鉄がスクラップ価格を上げたが、荷動きは依然として良くない。メーカーの製品が売れ出ださないことには、スクラップ市況が良くなることは期待できず、今は我慢しているしかない。

<金属表面処理加工>

- ① 12月は紐付き、物件とも計画通り。スポットは例年の駆け込み需要を期待していたが、それほど動きは実感できず。来年1月以降の引合いが活発なこと、物件物の受注が確定していることから、安定操業で推移する予定である。